



©2007 TWENTIETH CENTURY FOX. All rights reserved

The Cinema of UCG Choice

『トランスフォーマー』

8月4日(土)公開

日劇1ほか全国にて

Movie on Sunday, Sell on Monday... ?
Chevrolet Camaro

60年代、マスタングとカマロが広く人気を博した理由のひとつにはSCAAのトランザム・レースでの熾烈な戦いにある。当時は“RACE on Sunday, SELL on Monday”と言われるほどレースは売り上げを左右していた。一方、マスタングは映画でのプロモーションにも精力的で、スティーブ・マックイーン『ブリット』は映画史上に残る成功例だろう。正義だが清廉潔白とはいえないワイルドで孤独な刑事ブリットは、そのキャラクターとともに愛車のマスタングを世界中の悪ガキたちの胸に刻印し、彼らはいまだにマスタングの信者である。

さて一方のカマロ

は、2009年の復活を前に、スティーブン・スピルバーグ製作の最新作『トランスフォーマー』に登場する。トランスフォーマーは宇宙の金属生命体で、オリジナルはロボットだが、それ以外の様々な機械に形を変えることができる。彼らは地球に墜落したあるものを善悪二手に分かれて探しており、アメリカの高校生サムがその行方を知っている。善玉は1体のロボットを1976年型のカマロに姿を変えて彼に近づくのだが、映画のミソはここからだ。サムがそのポロポロぶりを嘆くと、クルマは自らまたまたトランスフォームし、ガラリと新しくなった2009年型が華々しくも颯爽と登場するのであ

る。そこに近づく悪玉車は、新型マスタングのハイパフォーマンスグレードであるサリーンS281。因縁のライバル対決を演出するのはクルマ好きの監督マイケル・ベイ(『バッドボーイズ』シリーズ)で、いつもの派手さはそのままだに、ロボットへクルマへまたロボットへと目まぐるしく形態を変えながらのカーアクションは、そりゃもう驚きの連続だ。GMはこの映画にかなり入れ込んでいるのか、カマロ以外にもポンティアックにハマーにGMCピックアップトラックに……と正義の味方はオールスターシフト、プロダクトプレイスメントもここに極まれりといった感がある。



だが老婆心ながらこれでホントにクルマが売れるだろうか。個人的に言うなら、映画のカマロはお茶目な笑いなんか取ったりして、キャラクターとして可愛すぎ、正義すぎる。カマロの魅力は、ご清潔な“大鷲のケン”でなく、悪ぶった“コンドルのジョー”である。唐突にガッチャマンだが、トランスフォーマーはそもそも変形ロボット玩具だし、売れちゃうのはそっちのような気がしてならない。

渥美志保

映画ライター、コラムニスト。数々の人気雑誌に映画関連のコラムを執筆している。映画に登場するクルマで最も好きなのはボンドカーのアストン・マーティン。